

花 武島羽衣 作詞  
滝廉太郎 作曲

春のうららの 隅田川  
のぼりくだりの 舟人が  
權のしづくも 花と散る  
ながめを何に たとうべき

見ずやあけぼの 露浴びて  
われにも言ふ 桜木を  
見ずや夕ぐれ 手をのべて  
われさしまねく 青柳を

錦おりなす 長堤に  
暮るればのぼる おぼろ月  
げに一刻も 千金の  
ながめを何に たとうべき  
ながめを何に たとうべき

いのちの歌

Miyabi(竹内まりや) 作曲  
村松 崇継 作曲

生きてゆくことの意味  
問いかけるそのたびに  
胸をよぎる  
愛しい人々のあたたかさ  
この星の片隅で  
めぐり会えた奇跡は  
どんな宝石よりも たいせつな宝物  
泣きたい日もある 絶望に嘆く日も  
そんな時そばにいて  
寄り添うあなたの影  
二人で歌えば 懐かしくよみがえる  
ふるさとの夕焼けの  
優しいあのぬくもり  
本当にだいじなものは  
隠れて見えない  
ささやかすぎる日々の中に  
かけがえない喜びがある  
いつかは誰でも  
この星にさよならを  
する時が来るけれど  
命は継がれてゆく  
生まれてきたこと  
育ててもらえたこと  
出会ったこと 笑ったこと  
そのすべてに ありがとう  
この命に ありがとう